

## 校名：広島大学附属東雲小学校

所在地：〒734-0022 広島市南区東雲3丁目1-33

電話番号：082-890-5111

記載日：平成28年5月20日

記載者：山本光信

記載者役職：副校長

### 貴校の校風、おおまかな特色について

本校は、広島大学の附属学校として、大学の教員と連携・共同し、日々の有効なる教育実践を行うとともに、現在およびこれからの教育の創造並びに教育に係る社会貢献をめざす教育研究、有意な教員を養成する大学の人材育成における教育実習を担っています。

また、本校には、単式学級（通常の学級）のほか、小規模の教育研究を行うための複式学級、知的障害のある児童の教育研究を行うための特別支援学級を設置しています。単式学級、複式学級、特別支援学級の3つの学級形態をもつという全国でも数少ない附属学校としての特色を活かし、「共生社会に生きる主人公として学び育つ子どもの育成」を学校教育目標に掲げ、協働・共同の教育を展開しています。

### 貴校の卒業生の活躍状況について

- ① 学校として、卒業生の追跡調査は行っておりません。
- ② 本校は、明治8年、広島県公立師範学校附属小学校として創立され、今年で141年の歴史をもつ学校です。この間の卒業生によって同窓会が設立されており、卒業生の情報は同窓会で把握されています。
- ③ 教育界、政治・経済界など、多方面にわたって活躍されている卒業生が数多くおられます。

### 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

- ① 学校として、本校の勤務経験者の追跡調査は行っておりません。
- ② 本校と広島大学附属東雲中学校に勤務した経験のある教員と、現在両校に勤務している教員とで組織される「起虎会」があります。両校が、毎年共同開催している東雲教育研究会に合わせ、起虎会の総会が開かれています。
- ③ 本校での勤務経験がある教員が主に広島県内の公立学校や教育委員会に戻られた後、多くの方が校長・教頭といった管理職や、教育委員会等の指導主事として活躍されています。また、全国の大学で教授、准教授として活躍されている方も数多くおられます。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

本校は、平成27年2月19日、ユネスコスクールへの加盟が承認され、次のプロジェクトに取り組んでいます。

本プロジェクトの目的は、異なる価値観に気づき、互いを認め合う子どもの育成です。

単式学級、複式学級、特別支援学級の児童が交流したり、学年の異なる児童と一緒に活動したりすることで、互いの違いに配慮した行動をとることや異なるものの見方・考え方を学ぶことを促すカリキュラムの開発は、本校児童を「共生社会を担う子ども」へと導くものであると同時に、他校にとっても有益な情報提供となると考えています。

## 違いの理解と共生の実現プロジェクト

### —同年齢・異年齢集団による体験活動の発展的な展開を通して—

本校では、各学年段階において、自然環境とのかかわりを体験的、系統的、協働的に深める活動を実施しています。併せて、縦割り集団による異学年交流などの活動を実施しています。

#### 1・2年：「元宇品探検」

元宇品探検では、生活科を中核として合科・関連的な学習を構成し、広島湾の元宇品付近の海に棲む生き物について、事前に本などで調べたり、実際に現地へ行って、生き物探しをしたり、生き物を絵と文で記録したりします。仲間と共に海辺の自然環境に親しむことを通して、多様な生き物が生きていることを知るとともに、異なるものの見方、考え方があることを知ることを行なっています。

#### 3年：「三滝宿泊学習」

初めての宿泊体験である三滝宿泊学習では、家庭を離れ、見通しを持って行動することにより、精神的・身辺的自立を図ることをねらいとしています。また、集団で行動することにより、仲間と協力することや自分の役割を果たすことの大切さに気づくことをねらいとしています。

更に、広島市の三滝少年自然の家周辺の自然の中で活動することにより、比較的身近な自然環境に目を向け、関心を高めることをねらいとしています。

#### 3・4年：「太田川探検」

太田川探検では、1・2年生時の「元宇品探検」の学習を基に、広島湾に注ぎ込む太田川の中流域に棲む生き物について、観察や採集を行い、川に棲む生き物について理解を深めることをねらいとしています。また、魚釣りや自作の筏での川下りなどの体験を通して、川辺の自然環境に親しむとともに、自然を大切にす気持ちをもつことをねらいとしています。

#### 4年：「海の学習」

海の学習では、広島県呉市蒲刈町の県民の浜において、地引き網体験、タコ漁体験、カッター操船体験などの活動を通して、自然の良さや美しさに触れるとともに、海の生き物の生態や、瀬戸内海の自然環境や生活文化について学習することをねらいとしています。また、仲間と協力して活動することを通して、お互いの事情や考えの違いを理解しながら活動することで、仲間との関わりを

深めることをねらいとしています。

### 5年：「山の学習」

山の学習では、広島県廿日市市吉和の広島県立もみの木森林公園において、飯盒炊飯やテント宿泊などを通して、仲間と協力して困難を乗り越えることをねらいとしています。また、1200m級の山に登ったり、沢登りをしたりして、4年生までに学習してきた太田川の源流域について学習すると共に、お互いの事情や考えの違いを理解しながら助け合って最後までやり抜くことをねらいとしています。

### 6年：「旅の学習」

旅の学習では、沖縄本島北部の伊江島において、民家体験泊により、大自然の中での暮らす島の人々との触れ合いを通して、沖縄の自然や文化、琉球の歴史に触れることをねらいとしています。また、ひめゆり平和記念資料館を見学したり、語り部の人から戦争体験を聞いたりすることで、住民を巻き込んだ激しい地上戦が行われた沖縄戦の歴史を肌で感じるとともに、これまで広島で学んできた平和学習と繋げ、改めて生命の大切さや平和の尊さを考えることをねらいとしています。

### 全学年：「縦割り活動」

1年生から6年生までの全ての学年を、36の縦割り班に分け、毎日の掃除や縦割り弁当、お迎え遠足などの活動を行うことで、6年生がリーダーとなって、異なる学年の児童と一緒に遊べることを考えたり、学年に応じた役割を考えて与えたりすることにより、班に所属する個々の事情や考えの違いに配慮しながら、全員が力を合わせて班としてのまとまりを創りだしていくことをねらいとしています。

## 複式教育の実践研究

本校では、少人数の異学年集団である複式学級の特性を積極的に生かした実践の工夫を行うことで、児童の「自ら学ぶ力」「豊かな表現力」「他者とかわる力」を伸ばしていきたいと考え、児童が主体的に進める学習を異学年同時に見守りながら支援していく「見守り型」での授業づくりを継続して実践しています。

毎年6月には、複式教育授業座談会を開催し、見守り型支援による授業実践を公開・提案するとともに、複式教育に関する情報交換を行っています。

## 特別支援教育の実践研究

本校の特別支援学級では、自己肯定感を高める授業づくりを継続的に行うことによって、「やりたい」「役に立ちたい」という気持ちをひき出し、将来、それぞれの生活の場で、自ら責任をもって役割を果たそうとする姿に繋がっていくと考えています。

文部科学省「インクルーシブ教育システム構築モデルスクール事業」に取り組むとともに、ことばや行動で自己を十分に表現し主体的に生活や学習をする力をしっかりとつけていくために、年3回の宿泊学習や年2回の劇表現などの行事に取り組んでいます。

## 地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

本校では、日々の教育実践活動を大切にするとともに、教育研究活動や教育実習指導にも積極的に取り組んでいます。特に、教育研究においては、その成果を広く社会に還元し、貢献してきました。毎年、東雲教育研究会、複式教育授業座談会（複式教育研究会）、学校公開（Welcome Day）を開催するとともに、学会等での発表や広島県内外の学校における授業研究会・研修会での指導・助言など多くの実績を残してきている。

特に、複式教育においては、中国地方をはじめ全国から本校を訪問して研修したいとの希望があるなど、複式教育を実践・研究している附属学校として貴重な存在となっています。

小規模校は、次々と統合されていくなかで、複式学級を有している学校も多くある現状です。そうした中、本校が行っている複式教育の実践研究は、有意な提案となっているとともに、多くの学校で研修に活用されています。

## 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

附属学校として、教育実践、教育研究、教育実習の役割を担っています。

大学が行っている教員養成のなかで、学校現場で行う教育実習はとりわけ重要であり、実際に指導を担う附属学校の役割は大変重たいものとなっています。

本校では、教育実習のため、毎年100名近い教育学部等の学生を受け入れています。また、実習入門、観察実習などの授業で、大学の1年、2年の学生も受け入れています。

また、養護教諭をめざしている医学部保健学科の学生の実習も受け入れています。

これらの指導を附属学校以外の学校に依頼して行うことは、大変困難なことと考えられることから、附属学校の存在意義は大きいと思います。

教育実習を行った学校が、教育における先進的役割を果たしている附属学校であることは、教員となった以後も、その教員の成長に貢献できると思います。

本校でも、教員経験の短い者を対象に、日々の教育実践における課題や悩みを共有する場となればと考え、学校公開（Welcome Day）を開催してきています。

教育研究においても、附属学校の教員と大学の学部・研究科の教員とが、協力して共同研究を行い、常に新たな教育に関する情報を発信しています。

このように、附属学校が、教育研究においても中心的、先進的役割を果たしており、附属学校で教育実習を行った教員をはじめ、多くの教員の資質・能力の向上に貢献しています。